

静岡県 御前崎市



比木地区 学び歩きマップ



商工観光課HP



所在地地図

比木の由来

比木の地名の由来は、記録では確認できない。比木大陣原から黒曜石製の石器や土器が発掘され、それらが縄文時代のもものと検証されていることから、比木には縄文時代より住民が住んでいたことが伺える。古事記、日本書紀に「幣岐君」という人物がいたという記述がある。君という姓は皇室の血統を引く地方の豪族に与えられたとされ、古事記に言う幣岐君は応神天皇の皇子・大山守命の子孫であると推定される。大方の学者の説は、幣岐君は比木地方を支配統治していたと推測されるが確証は得られていない。

お問い合わせ

■ 御前崎市役所 社会教育課
御前崎市池新田 5585
TEL.0537-29-8735

■ 比木地区センター
御前崎市比木 2836-5
TEL.0537-86-3463

2023年3月現在 第3版

1 南原地蔵尊 (子育て地蔵)

MAP D-1



比木原の御堂に20基ほどの地蔵が祀られている。住民の伝えるところによると大正時代末に流行病の蔓延で亡くなった人や幼くして亡くなった子供の供養に祀られたという。祭壇中央には厨子に納められた観音像が安置されている。堂脇には墓石、馬頭観音、もう一体は撫で仏の一種らしい石仏が祀られている。



2 秋葉神社 (あきはじんじゃ)

MAP D-1



秋葉山は静岡県浜松市にある標高866mの山で、山頂の秋葉本宮秋葉神社には秋葉大権現が祀られている。火伏の神(火難除けの神様)として古くから信仰を集めた秋葉大権現は、江戸時代に参詣が流行したが当時その参詣の費用を捻出することは困難で、全国各地で「秋葉講」という契約講(互助組織)が結成された。中には祠が置かれている。

3 六道地蔵尊といぼ地蔵

MAP C-1



比木原地区にある地蔵堂。いぼ地蔵を中心に早世した幼児供養の地蔵が祀られている。

いぼ地蔵は香炉の灰を手に擦り付けて祈願し、治ると年の数ほどの豆を供えて報賽したといわれる。また、ミミガイもあげられたこともあり、耳の病気も救ってくれたようである。中央の舟形の座像には、1688年(元禄元年)からあり、1723年(享保13年)に新しくしたことが記されている。

堂外には大日如来、馬頭観音二体、西国三十三か所金毘羅碑が祀られている。西原地区の信仰が三百年前から続いていることがわかる。

4 名波の地蔵尊

MAP C-4



名波の地蔵尊は比木地区の南部にあり、「寛文十年三月」(1670年)と刻まれ、比木で最古になる。

中田の地蔵尊は地区西部にあり、1848年(弘化5年)に造られたといわれている。

5 中田の地蔵尊

MAP C-5



6 ほんど様

MAP C-5



梶ヶ谷の本道山に「ほんど様」と呼ばれる小堂がある。腰の病気平癒を祈願すると必ず直してくれると土地の人から信仰されていた。その昔、腰の病に悩んだ六部の老夫婦を祀ったもの。

終戦ごろまでは毎年大祭が行われ、多くの露店が立ち並び、遠近からの参詣も多く、大変にぎわった。

7 道標 (みちしるべ)

MAP D-3



勝佐の道標



名波の道標

勝佐地区に残る比木村時代の道標。「左 相良」「右 池新田」と記されている。

名波地区にも道標があり、「左 佐倉」「右 相良」と記されている。

8 散歩道福田沢 (さんぼみちふんださわ)

MAP D-1



福田沢と書いて地元では「フンダザウ」の名で呼ばれている。比木原地区の保存会を中心に東原の住民たちが草刈り作業を行い、整備をしている。

福田沢沿いの約1.2kmの散策路は最低限の手を加えた自然いっぱいの場所で、2月下旬にはカワヅザクラが、また春の花も咲き池にはコイ・カモが泳いでいる。

9 比木城山 (ひきじょうやま)

MAP D-1



比木城山



殿ノ山

比木城山は牧之原台地が張り出した先端部、三間地区の標高106mの場所に位置する。本曲輪と二の曲輪からなり、二重の空堀や塹堀などが残っている。高天神城攻防の折、相良から高天神城方面へのルート確保のため武田氏によって築城されたものと推測される。また、同所からは溝状遺構や土坑などが検出されており、室町期以前にあった領主館を戦国期に改修したものと考えられる。

比木城山の南の標高は52mほどの小高い丘に「殿ノ山」がある。戦国期の縄張りといわれる。

名波谷に「城ヶ峰」と呼ばれる城跡がある。東西に1本ずつの堀切があるのが特徴。また、やや円形をした本曲輪一つである。

それぞれ、今は茶畑や木々に覆われて様子を確認することが難しい。

10 矢村宣昭 (やむらせんしょう)と矢村義塾

MAP D-3



矢村宣昭氏は江戸本郷に生まれ、1869年(明治2年)25歳で榛原に私塾を開き、その後、相良小学校長、磐田見付小学校長、東京開成学校、外国語学校等で指導にあたった。

1900年(明治33年)に萩原佐吉氏の招きにより比木の正福寺前に矢村義塾を開講した。以来16年間にわたり近隣各村から500余人の地方農村子女の中等教育を施し、地方振興の基礎に大きな力となった。

石碑は1923年(大正12月)年、門下生によって塾の跡地に建てられ、師の遺徳を現在に語りついでいる。

11 比木賀茂神社と社叢 (しゃそう)

MAP D-3



静岡県指定文化財(第599号)



賀茂神社は708年(和銅元年)京都の上賀茂神社から勧請されたと伝えられている。市内でも、池宮神社、高松神社に次ぐ古い由緒ある神社とされている。

社叢は鎮守の森として長い間自然のまま保護されていたことから、植物の種類や量が変化しなくなり、環境条件に合った安定した森(極相林)として、1997年(平成9年)県指定天然記念物に指定された。スタジイをはじめヤマモモ、タブノキ等の広葉樹が生い茂り、静岡県を分布の限界とする植物や昆虫が生息する。

12 育英橋 (いくえいばし)

MAP C-3



育英橋は1931年(昭和6年)竣工の鉄筋コンクリート製の橋で、昭和初期の味わいあるデザインが特徴。鉄筋コンクリート製の建造物としては御前崎市内で最古のもの。

この場所にはもと比木小学校と幼稚園があり、比木の子どもの成長を見守った橋であった。現在は比木体育館が建ち、歩行者のみ通行ができる。

13 正福寺の宝篋印塔 (ほうきょういんとう)・三十三観音

MAP C-2



正福寺の開創は1339年(暦応2年)当初は真言宗であったが1556年(弘治2年)曹洞宗に改宗した。

中世の宝篋印塔の部材13点が正福寺にある。そのうち基礎一点(市教育委員会蔵)には1384年(至徳元年)に「弥天高公禪定尼」が死去したことを示すことが書かれ市内唯一の紀年銘資料として重要である。

堂裏には32体の三十三観音が祀られている。一体ごとに檀家などの名前が刻まれている。

祠の横に西国三十三観音巡礼塔が安置されている。江戸時代中期のもので、頭部に傘を作り出した高さ93cmの舟形碑に、デフォルメされた観音像が並ぶ独特な巡礼供養塔である。

● 大陣原遺跡 (だいじんばらいせき)



大陣原遺跡(茶畑)

大陣原遺跡は、川左岸一帯に展開する丘陵地帯に立地している古代から古墳時代の集落跡。現在は茶畑になり跡を見ることができない。

ここでは黒曜石製の石鏃が採集され、その中の1点は長野県星ヶ塔産、剥片は神津島産と判断された。弥生土器と8世紀ころの須恵器短頸埴の土器片も発見されている。

また、近くの塚では観音像や「金銅製六角宝幢経筒(灯籠)」と「支那古代の壺屋銭六個」が発見された。経筒は現在、東京国立博物館に所蔵されている。

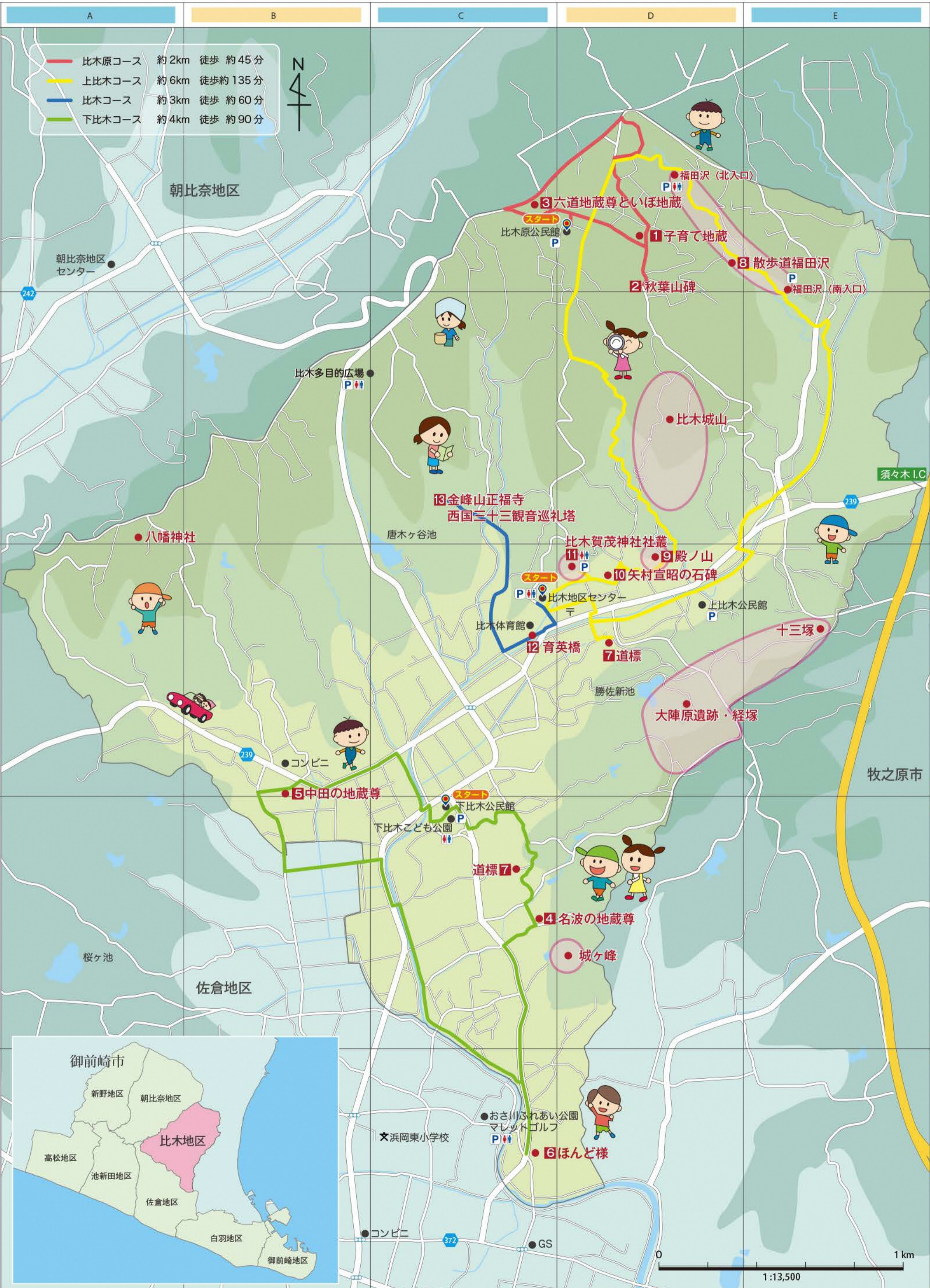
● 十三塚(じゅうさんづか)



牧之原市に接する標高85mほど丘陵に立地する。開墾により茶園が広がり、一基を残し湮滅の状況にあるが、本来は多くの塚が並んでいたと考えられる。経巻を取めた壺や珠などが出土したという伝承からすると、大規模な経塚群であった可能性もある。

静岡県御前崎市 比木地区学び歩きマップ

- 比木原コース 約2km 徒歩 約45分
- 上比木コース 約6km 徒歩約135分
- 比木コース 約3km 徒歩 約60分
- 下比木コース 約4km 徒歩 約90分



0 1 km
1:13,500